

まちの話 題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。
連絡先 市まちづくり推進室 ☎ 43・8113



仕事の魅力を肌で感じる1時間

県立光陵高校で市商工会青年部員が出前授業



▲今にも料理を始めそうなコックの衣装で生徒の前に登場した花田さん

県立光陵高校では、仕事や職業の研究を通して、将来の進路決定の材料とするための学習時間を設けています。10月15日、1年生を対象に、保険会社や塗装店などで働く、市商工会青年部員10人が講師となり、授業を行いました。

中でも、洋食店のハイドパークを経営する花田政雄さんは、時折生徒たちに「人は何で働くのか」などと問いかけながら、中学・高校生時代をどのように過ごしてきたのか語りました。また「新型コロナウイルス感染症が蔓延する状況下で、何が大変だったか」という問いに対しては「緊急事態宣言とともに休業し、廃業かなと思った。少し休んでメイクアウトを始めたけれど売り上げは足りない。でも何もしないで諦めるより、何とか店を存続させようともがいた結果、盛り返すことができた」と熱弁。1時間の講義を聞いた生徒は「進路を決めるために役立てたい」と感謝の気持ちを伝えていました。

全日本大会の切符をかけて

プリンセス駅伝in宗像・福津



▲第3区で区間新記録の走りを見せた積水化学の新谷仁美選手

福津・宗像両市で、10月18日、女子駅伝の日本一を決める全日本実業団対抗女子駅伝の予選会「第6回プリンセス駅伝in宗像・福津」が行われました。

全国各地から参加した28チームの中から14チームに与えられる全日本大会の出場権をかけて、発着点の宗像ユリックスから津屋崎干潟、宮地嶽神社などをめぐる全6区間42・195kmのコースで熱戦を繰り広げました。

毎年、沿道では、市民や各チームの応援団が熱い声援を送っていました。今回、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、沿道での応援は自粛。それでも、選手たちは懸命に走り、襷をつなぎました。その結果、大会を制したのは積水化学。福岡県勢では九電工が4位に入りました。

命の大切さ、おいしさの秘密に触れる一日

「おいしさのひみつをみつけよう！」が開催



▲真剣な表情でトウガラシを摘んでいました

野菜の収穫やその準備などを通して、農家の仕事を知り子どもたちがのびのびと体を動かす機会をつくらうという企画「おいしさのひみつをみつけよう！」が、本木のくわの農園で開催されました。参加した子どもたちは、トウガラシの収穫や、キャベツに日が当たるように、キャベツ畑の雑草を踏む作業を体験。体験後には、地域の猟友会の皆さんが獲ってきたばかりのイノシシを食べながら、命の大切さを学んでいました。

心地よい秋風を感じながら

松林ウォークが開催



▲今年は規模を縮小しての開催でした

福岡地域郷づくり推進会主催の松林ウォークが10月25日に開催されました。普段、地域の皆さんが保全活動を行っている花見地区から西福岡地区までの松林、約6kmのコースに、200人以上が参加しました。古賀市からの参加者は「松林がしっかりと手入れされていて感動した。海風も気持ちよく、参加してよかったです」と語ってくれました。

一週間分のお米をありがとう

上西郷小学校に米を寄贈



▲児童と一緒に給食を食べる伊藤さん

50年以上前に上西郷小学校を卒業した伊藤弘章さんが60kgの米を母校に寄贈しました。10月20日、伊藤さんは上西郷小学校を訪れ、6年生の児童と一緒に給食を食べながら「昔の給食で何が一番おいしかったか」という質問に「鯨のカレーライス」と答えるなど、楽しい時間を過ごしました。児童から「お米を食べると元気に過ごしていきます」と、お礼の手紙が渡されると、伊藤さんはうれしそうに手紙を受け取っていました。

日頃の感謝の気持ちを込めて

株式会社キューヘンが約300鉢のランを寄贈



▲市役所にも30鉢のランを寄贈いただきました

株式会社キューヘンが毎年開催している「ゆのか祭り」が、新型コロナウイルス感染症の影響で中止に。そこで「何か違うかたちで地域の人に感謝の気持ちを示そう」と、市内小・中学校や病院、市役所に約300鉢のランを寄贈。また、祭りの後には社会福祉法人サンテラス福祉会への寄付を24年続けており、今年も11月に寄付をされました。